

医療法人清仁会

北海道内科 リウマチ科病院

北海道内科リウマチ科病院は、2009年に高齢者療養病院に整形外科とリウマチ内科を加え、理事長の谷村医師のもとリウマチ診療を中心とした専門病院として改称・リニューアルオープンしました。現在では、北海道におけるリウマチ医療の中核病院としてチーム医療を実践し北海道全域から1カ月で2,500人ほどの外来患者を受け入れています。この病院の取り組みについて理事長の谷村一秀医師、川口洋子看護部長、病棟看護師の平沢妙子副看護部長（看護課長兼任）、新田千絵主任、外来看護師の馬場幸子看護課長、蝦名百合亜主任に伺いました。

徹底的なチーム医療を軸に

一病院の概要についてお聞かせください。

谷村理事長（以下敬称略）：私は以前から「内科慢性疾患の専門病院をつくりたい」という夢をもっており、一緒にリウマチ医療に携わってきたスタッフとともに当院でそれを実現させることができました。病院の立ち上げにあたってこだわったのは徹底したチーム医療で



谷村一秀理事長

す。リウマチは全身疾患であり、一般内科や整形外科も関わりますし、リハビリも重要です。事務職も含めた全職種が同じ軸をもって患者さんの対応をしないと見逃しやケアのズレが生じ得ます。当院では専門外の疾患も診るので、



左から蝦名百合亜主任、馬場幸子看護課長、谷村一秀理事長、川口洋子看護部長、新田千絵主任、平沢妙子副看護部長

ますます多職種チームが重要です。

診療や治療に関しても各職種からアイデアを持ち寄りながら進めています。我々が以前から取り入れている関節エコーの評価方法は、内部のコメディカルからでたアイデアです。リアルタイムに関節を評価できるツールとして応用されています。看護、リハビリなど各職種からそれぞれの視点でアイデアや日常の疑問点が出るので、毎月意見交換の場を設けています。そのなかで、例えば看護師の気づきを数値化して皆での情報共有を可能にするツールのようなものができればと思っています。

一看護の方ではいかがでしょうか

川口：看護部では理念として「チーム医療の中で看護・介護の専門性を活かし、患者の人生の質に注目した療養生活支援を行う」を掲げてます。“人生の質”にこだわったのは、慢性疾患を抱えて歩む患者さんの人



川口洋子看護部長

生のサポートを目指すからです。当院はリウマチ性疾患の方のほかにも身体機能障害をおもちの方が多いため日常的にリハビリが行われており、看護にも積極的に取り入れています。多職種によるリハビリカンファレンスは各職種がそれぞれの役割を意識する場であり、回を重ねるにつれ看護師も患者さんの情報をとる力をつけてきています。

平沢：病棟では、入院患者さんとかかわり方などについて日常的にリハビリセラピストと情報交換を行って

います。皆で情報を共有できればより多くのスタッフが患者さんに寄り添えると思うんです。看護補助者の方ともこまめに情報交換をする習慣をつくり、最近では看護補助者から質問や提案がでてくるようになりました。

お一人お一人の「人生の質」を考えて —サービス向上のための工夫をお聞かせください。

川口：病院の立ち上げにあたりリウマチ患者さんの声を聞きながら、トイレや洗面所、浴室などの設備をリハビリセラピストと一緒に整えました。

平沢：最初は最新の設備にしようと考えました。しかし、退院後にご自身の能力を活かして自立した生活を送ってほしいので、自宅で参考になるよう元々の設備に工夫を加えることにしました。長い間住んだ場所で生活できることは、「人生の質」につながると思うんです。またリハビリセラピストと協働して患者さんそれぞれの生活にあわせた“オーダーメイドの環境設定”を行っています。例えば机の高さや食事に必要な道具の検討ですね。ベッドではなく椅子に座って食事を取る場面も増えました。

新田：生活で困っていることは患者さんそれぞれ違うので、看護師が聞き出す必要があります。不慣れた状態に慣れている場合もあるので、看護師が観察し提案することも重要です。

蝦名：我慢強く、自分からはおっしゃらない方が多いですから、外来では診療の合間に意図的に話しかけるよう、スタッフ全員が心掛けています。

馬場：VASの数値が高いとき、いつもと何か様子が違うときなどには特に声をお掛けします。当院のスタッフは、患者さんの名前と顔がかなり一致しているんですよ。笑顔で名前を呼んでもらえると安心しますよね。

—日常のケアで気づいたことはありますか？

蝦名：生物学的製剤を1回施行した途端、元気のな

い患者さんが別人のように笑顔で話をするようになったことがありました。痛みは人を変えてしまうし、痛みが除去できれば本来の姿を取り戻すことができるのだと感じた出来事です。家族の理解不足のため症状を進めてしまうこともあるようなので、できるだけご家族に理解してもらい、頼れるときは頼って関節を休めるようにと伝えています。

新田：痛みは他人に伝えることが難しいので患者さんは孤独感をもつようです。痛みと心理的ケアはかなり密接なので、できるだけ患者さんと向き合い、心の負担を軽くするよう務めています。現状の不満や今後の不安を抱えていることも多く、人生経験や家族などの背景も踏まえる必要があります。病棟での説明の際は必ずご家族に同席していただいています。



新田千絵 病棟主任

馬場：当院には北海道全域から患者さんが来られ、中には利尻島からフェリーを利用し泊まりがけで来院される方もいます。ご本人にとっては札幌に来て医師やスタッフと話すことが安心や喜びにつながっているようです。

蝦名：遠方の方が多いため休日や夜間に電話でアドバイスできる体制を整え、特に通院して日が浅い方は小さなことでも相談していただくようご案内しています。

—患者教育はどうされていますか？

谷村：病院の取り組みを患者さんに伝える義務があると考えていますので、年に2回のリウマチ膠原病教室と年1回の市民フォーラムを行っています。

平沢：生物学的製剤により絶大な効果もたらされる一方で、薬の使いすぎや誤用、無理のしすぎもみられるようになりました。患者さんに正しい知識を身につけてもらうため、10日間の教育入院の計画を立てました。全病院をあげてチーム医療を活かした指導を行っていきたくと考えています。

蝦名：最近、妊娠の予定のある若い患者さんの質問が増えたので、妊娠と薬について理解を促す教育パンフレットを作成しています。

—看護体制やマネジメントの工夫をお聞かせください

新田：慢性疾患の患者さんは複数回入院されること



平沢妙子 副看護部長



馬場幸子 外来看護課長

が多いので、病棟では看護師の継続受け持ち制を導入しています。前回の入院の状況を把握しているので、患者さんにも安心していただいています。

蝦名: 外来で点滴を受ける患者さんは、その方にとって楽な体勢などを記録しスタッフ間で共有しています。治療の度に何うことがなくなり、他のお話を伺えるようになりました。

川口: クラークの設置や、内服薬専用のカートの導入、薬剤部による薬のセッティングなど看護業務の負担軽減や安全性向上のための工夫も進めています。退院支援スクリーニング表を使用し、医療福祉課と協働で入院時から退院に向けた支援に取り組み始めました。

エキスパートを育て全国に発信を

—教育や勉強方法についてお聞かせください

平沢: 病院リニューアルの際、リウマチ疾患の経験のない看護師や看護補助者が疾患知識と生活指導の両方を習得できるリウマチ教育シリーズを立ち上げました。例えば薬なら薬剤師が内服薬の話をし、看護師からは服薬時の生活の注意点の話をするかたちですね。

蝦名: 個人として実践しているのは、新しい文献を定期的にチェックすること、スキル向上のために多くの患者さんの生の声を聞き、何が外来看護に必要なかを考えることです。

新田: 私もリウマチ看護を始める際まず文献で知識をつけ、その上で現場で知らないことがあれば医師に聞き看護に活かしています。後輩に教える際には、こうした勉強法や患者さんの情報を収集し他職種に伝達するノウハウを実践で示しています。

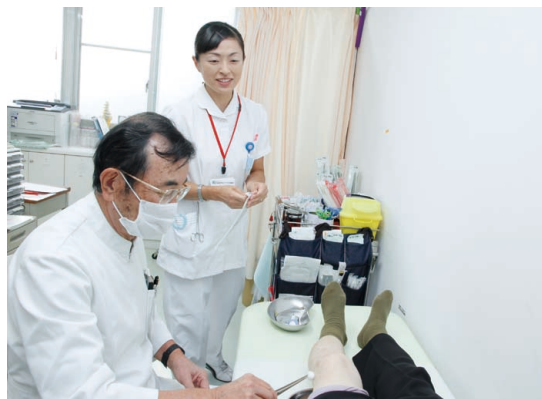
—調査や研究もされていますか？

蝦名: 通院されている患者さんの中で内服に関して戸惑いの声が聞かれたので、患者さんの理解や対処法について現状把握のためのアンケート調査をしました。結果が出たらケアに活かし患者さんにお返したいと考えています。

馬場: 患者さんにご協力いただいて得た貴重な情報なので、外に向けて発信していきたいと思っています。



蝦名百合垂 外来主任



外来での様子

—先生が看護師に期待していることは何でしょうか。

谷村: 医師は長期にわたり慢性疾患を診ていると見られてしまうことがあるので、看護師ならではの視点で客観的に観察をし診療に活かしてほしいです。またどんどん治療に参加してもらいたいと考えていますので、最新の医学知識を身につけてほしいですね。病院としては、リウマチ性疾患について各領域のエキスパートを育てて外部にアイデアを発信していきたいと思っています。そのためにも、コメディカルスタッフには外部の勉強会や研究会に行くよう勧めていますし、学会活動も各部門に任せ活発に行ってもらっています。

川口: エキスパート育成の一環として、当院からもリウマチケア看護師の申請を考えています。資格は質を高めるきっかけになり、他のスタッフの目標にもなります。外部の研修は気づきが現場に反映されていると実感しているのでサポートを続けていきたいです。看護師の専門性を育てるため、長く勤められる環境と看護に充実感と喜びを感じられる職場の整備も進めていきたいと考えています。

病院プロフィール

医療法人清仁会 北海道内科リウマチ科病院
所在地: 札幌市西区琴似 1 条 3 丁目 1-45
開院: 1987 年 5 月、改称: 2010 年 1 月
病床数: 180 床
診療科目: 内科、リウマチ科、消化器内科、循環器内科、リハビリテーション科
URL: <http://www8.plala.or.jp/HMCR/>

撮影: 大槻健二